

宝塚市女性センターを訪問・取材

宝塚の市民活動を探る

1年くらい前、宝塚市に「女性施策オンブツ」なる市民グループがあることを知りました。ネット検索してみると、ほかにも市の女性施策を支え、推進の役割を担っている団体がたくさんあること、市民公募による委託職員が市女性センターの企画運営に携わっていること、そしてそれらの活動が功を奏し、市民の声が反映された男女共同参画施策が進んでいるらしいのです。これはもう、行って、観て、聴いてこなければなりません。

随所で生かされる市民の意見

宝塚市では、市民と市の関係は多様です。「宝塚女性施策オンブツ」のような、市民が独自に市の女性施策を検証するような市民グループ。「女性センター運営懇談会」という、市から出されたテーマを研究し提言するために集められた、センター利用者による中間的な市民団体。「活動推進専門員」は2年の間嘱託職員として運営に参加し、行政と市民の橋渡し役を務



利用しやすいフリースペース

めています。

宝塚市では、市民からの確かな調査の結果としての提言は、審議会の女性議員比率アップのためのクォータ制導入のように、積極的に取り入れられています。

ほかにも、100を超えるグループが「女性センター・エル」を拠点として活動しています。市が設立・運営するセンターですが、その設立には女性たちの長い市民活動の歴史があり、運営にも市民の意見を取り入れる体制が整っています。そういうシステムを行政が整備し、そのシステムが市民の男女共同参画への取り組みを活性化させ、活動を支えているのです。



●チラシの多さに目を見張る。「輝けワーキングマザー」「あつまれ！お父さん育児サポート」「更年期について」など、あらゆるジャンルがある。これだけあれば、どんなことで悩んでいても大丈夫だ。印象深かったのは、クォータ制の導入（平成12年度）と市長とのアポなし懇談。私もがんばるぞ。（丸亀市まちづくり女性会議OG会・山田）



訪問したみなさんの感想と意気込み

●「女性センター・エル」と「ゆめ」の部屋を比べて、どうしてこれほど違うのか謎が残った。オープンな「エル」に対して、垣根があって中が見えない「ゆめ」。当たり前のように男性がいる「エル」だが、「男性ですがよろしいですか？」って遠慮がちに様子をうかがう「ゆめ」。市民の手でどうかしましょうよ。きっと丸亀だって、市長や市議と意見交換できますよ。（ウイングシ・岩瀬）

●さすが先進地、男女共同参画の取り組みも多方面で推進されていた。「ゆめネットワーク」でも、各グループで会員個々の意識高揚とグループ間交流を図ることが、前向きな活動につながると感じた。（ウイングシ・進藤）

●男女共同参画社会を目指す講座を「市民企画コンペ」という形式で市民から募集し、グランプリ受賞企画は宝塚市が開催する。これはおもしろい、丸亀でもやってほしい。情報図書コーナーに膨大な量の新聞の切り抜きファイルがある。ボランティアと嘱託職員が作っていて、テーマ別に整理されている。これは役に立ちます。私たちのグループで、すぐにでもやってみよう。

（まちづくりグループまるみな・岡本）

●宝塚の女性たちから元気をもらってきた。駅前雑居ビルのワンフロアという開放的な女性センターが、女性だけでなく男性も高校生の姿も見られ、全ての市民のための空間だったのが印象深かった。行政と市民が企画運営に協力しているシステムはうらやましかった。とりわけ公募で採用された嘱託職員「活動推進専門員」の制度はすばらしい。子どもを預かるためのプレイルームや情報・図書コーナーなどの充実も見習うべき点であった。（スカイ丸亀・中島）



床の材質にも配慮したプレイルーム

岡山市の市民グループの方を講師に招いて講演会開催

岡山の市民グループからヒントを貰おう

岡山市で施行された男女共同参画条例は、その準備段階から市民が深く関わっていると知り、興味を持ちました。市が募集した市民団体の代表で構成された研究グループが条例の市民案を作ったようですが、その代表者は一人の主婦だということです。市民が条例の制定に携わった過程からは、男女共同参画のまちづくりを進めるうえで、市に何かしてもらっただけでなく、市民の立場から私たちに何ができるのか、学ぶべき点が多いでしょう。

学びたい事例の数々

■「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例」（平成13年10月1日施行）の特徴

- ・市民協働の条例づくり
- ・男女共同参画社会の形成への教育の果たす役割を重視
- ・全ての審議会などは、委員の性別比率を40%以上となることを義務づけ
- ・DV（ドメスティック・バイオレンス）、セクシュアル・ハラスメント、性別による差別的取り扱いが人権侵害として明確に禁止
- ・市独自の効果的なDV被害者保護

■拠点施設

- ・岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」を平成12年に開設
- ・市民と一緒に男女共同参画社会の実現を目指す

■「さんかく岡山」市民活動支援事業

（男女平等を推進する条例研究グループ）「さんかく岡山」を拠点に活動している市民グループから、条例づくりに関心のある人たちが集まって、条例に関わる学習・研究を進めた。そして、市民案条例策定を実現

（条例普及グループ）策定だけでなく、運用にも市民が参画し、市民の暮らしを応援する条例の普及活動を実施（プラン研究グループ）岡山市は、条例に基づく基本的な計画（プラン）の策定も、市民（公募）とともに進めている

アンケートより

今回の講演会の参加者は54人。ゆめネットワークのほか、婦人会などからも参加者がありました。参加者にはアンケートに答えていただきましたので、いくつかをご紹介します。

●今日の講演会で参考になったことは

- ・男女共同参画の条例づくりに向けて、具体的な過程を学ばせていただいた。実践者のお話だけに、大いに説得力あり
- ・考えることも大切だが、動くことの必要性も実感いたしました
- ・市民の力が行政を動かす原動力になることを知らされた
- ・行政とか議会といった政治的な面で影響力を持つことの重要性がよく分かった
- ・多数の者たちで声を上げ、意識改革をしていかなければ、何事も変化していかないと思った
- ・個人活動よりグループを組んでの活動の重要性



●男女共同参画のまちづくりに、どんなことなら市民にできると思いましたか。あなたなら何をしますか

- ・まず、自分の家から、自治会の中からも、身近なところから始めたいと思います
- ・児童虐待とDVは共通することが分かったので、子育ての会で話す機会があれば話したい
- ・議会傍聴に行く、女性議員をサポートする活動



好評だったコーヒーブレイク

●その他、何でも

- ・コーヒーブレイクがとても良かった
- ・もう少し、男性の参加がほしいと思いました

トピックス

「香川県男女共同参画推進条例に関して意見を聴く会」で発表しました

新日本婦人の会丸亀支部
近石美智子さん

降って湧いたようなこの公聴会への意見公募を知り、慌ててまとめた原稿を手に、県庁に行ってきた。策定期間が短すぎる、第三者機関による苦情申し立て制度が抜けている、など、意見を述べた。

どの発表者からも男女共同参画条例づくりに対する熟慮がうかがえた。しかし残念なことに、県議会に出された条例案に意見は反映されなかった。今回の件で、丸亀市で男女共同参画関連条例をつくる際の参考になったことは、相当のゆとりを持って臨むこと、そして、一人でも多くの市民が関わること。私も市民として今からできることを始めよう。まずは、条例づくりに関する勉強会だろうか。